



上田電鉄別所線の電車(奥)から上田駅に向かう代行バスに乗り換える乗客たち=16日午前10時32分、上田市諏訪形の城下駅

# 別所線「城下—下之郷」再開

## 運行区間拡大本数も大幅増

上田電鉄(上田市)は16日、台風19号の影響で連休していた別所線の城下—下之郷間(5.3キロ)の運行を再開した。全区間(11.6キロ)のうち運行区間は城下—別所温泉間に拡大。千曲川の増水で鉄橋の一部が落下した上田—城下間(7.20キロ)は引き続き代行バスで対応する。利用者からは「電車が動いて良かった」との安堵や全線開通を願う声が上がった。

【関連記事2面に】  
運行本数は1日上下計57本。15日までの39本から大幅に増え、被災前(71本)の8割に回復した。列車とバスの乗換駅となる城下駅では、大きな荷物を持った観光客や大学生らが駅員に切符を渡して乗り継いだ。



16日以降の別所線  
や学生らが下車。大学前駅から乗車した長野大3年の山口まどかさん(21)は上田市に

「乗り換えはスムーズ。乗車時間が短くなってよかった」とアルバイトに向かった。一方、女性(70)は「乗り換えはちょっと面倒。早く橋が直るといい」と願った。

午前9時台には上田駅から代行バスに乗り込む観光客の姿も。会社員の千葉信之さん(56)は運行区間拡大を受け、旅行の行程を変更したといい、「温泉が楽しみ」と笑顔だった。

# 別所線不通は上田―城下のみ

## 早期復旧 県・市の支援焦点

上田電鉄別所線の城下―下之郷間(5.3キロ)が16日に運行を再開。台風19号で被災し不通が続く県内鉄道は同線



一部崩落した別所線の鉄橋。緊急復旧が終わった堤防にブルーシートがかかっている。16日午後4時12分、上田市

上田―城下間(7.20キロ)のみとなった。国は今回の災害で、経営基盤が弱い鉄道事業者が行う復旧事業に対し、通常より手厚い財政支援を行う方針。千曲川に架かる鉄橋の一部が崩落した別所線にも適用される見通しだ。ただ一部は事業者の負担が残る。早期復旧には県や地元上田市、住民らの支援が不可欠となる。

### 【一面参照】

国土交通省は今回の災害を受け、経営基盤が弱い鉄道事業者に対し、通常なら国費で災害復旧費の4分の1を支援する制度を、2分の1に拡充する方針。残る2分の1の負担割合は定まっていないが、これまでの基大な

る。国は今回の台風災害を受け、こうした代替輸送も初めて支援対象とする。同社への適用が正式決定すれば、運行経費の3分の1を国費で補助する。ただ支援期間は最長で半年間を見込んでいるとされる。代行バス運行がこれより長期に及ぶ同社にとっては、国の補助期間拡大や地元自治体による支援も課題となる。

## 応急仮設住宅 受け付け開始

### 長野市の115戸分 22日まで

長野市は16日、台風19号で自宅が被災した市民向けに建設している応急仮設住宅(入居期間2年)の入居申し込みの受け付けを始めた。市内4カ所に115戸分が月内に完成予定で、市役所や市支所での受け付けは22日まで。

被災者は生活再建に向けた仮住まいを選ぶため、窓口で市職員の説明をじっくり聞いた。昭和の森公園にプレハブ造45戸、市営住宅上松東団地に木造32戸、若槻団地運動広場(みどりの広場)に木造23戸を建設中。ほかに県営住宅駒沢新町第2団地内にトレーラーハウス15戸を用意する。自宅が全壊、大規模半壊、半壊した被災者が対象で、家賃は無料。高齢者や障害者、妊婦を含む世帯を優先し、ペットと住める棟も用意する。市豊野支所を訪れたクリーニング店経営の原山一義さん(75)は、同市豊野町豊野の自宅が高さ約1.7メートルまで浸水。公営住宅の入居募集で1度抽選に外れたが、「ゆっくりと、復興に向けて努力したい」と話した。市住宅課によると、仮設住宅とは別に、計88戸を用意した2回目の公営住宅の入居募集には28世帯の申し込みがあった。残りの物件は改めて募集する。一方、民間アパートなどの借り上げ型応急仮設住宅には15日までに361世帯の申し込みがあったとしている。

# 未来につなぐ 水害の歴史

## 劇にした長沼小卒業生 被災後初めて再会

長野市長沼地区で起きた水害が題材の創作劇「桜つつみ」を2015年3月に演じた長沼小学校の卒業生16人が16日、台風19号で被災後初めて集まり、無事を確かめた。千曲川の堤防が決壊した現場近くにある劇主題歌の看板の前で、主題歌を合唱。「ほくらに託された思いを 未来につないでゆくよ」。思いを込めた歌声を響かせた。

「久しぶり」「大丈夫だった。約束した午後2時、被災した自宅や避難先から集まった現在高校2年生の16人は互いに声を掛け、抱き合ってから再会を喜んだ。思い出を冗談交じりに話し、忘れがちだった笑顔を取り戻した。

「自転車で通学する際、変わってしまった地元の風景を見るのはつらい」。自宅1階が浸水し、2階で暮らす同市穂保の高橋駿汰さん(17)はこぼした。この日は「みんなの元気な顔が見られてうれしか



被災後初めて顔を合わせ、笑顔で語り合う長沼小の卒業生。後方は千曲川河川敷=16日午後2時2分、長野市穂保

桜つつみは当時の長沼小6年生21人が、地元の寺にかつての浸水被害の跡を訪ね、歴史に詳しい住民らに取材して作った。この日は担任だった竹内優美教諭(現松代小学校勤務)や、看板設置を提案した地元の関茂男さん(86)も訪れた。「元気づけるために歌っておくれ。関さんが促し、全員が輪を作って声を合わせた。

「でも立ち上がり一歩ずつ歩んできた」。歌詞には、千曲川の猛威にもめげず長沼を守ってきた先人の姿を刻んだ。「未来につないでゆくよ」。締めくくりにフレーズはひときわ大きく聞かされた。

(佐藤勝)

## 千曲川氾濫

北信地区の小中高校の野球チームでつくる県青少年野球協議会北信地区協議会は16日、台風19号で被災した長野市長沼地区でボランティア活動をした。球児ら約370人が参加。「地域の支えがあつて野球ができる。恩返ししたい」と泥のかき出しなどに精を出した。

例年、社会人野球の信越硬式野球クラブ(長野市)選手による野球教室を開いてきたが「今年にはみんなで被災地を助けよう」と変更した。

8月の全国高校野球選手権に初出場した飯山高校(飯山市)

## 球児ら「地域に恩返し」

### 長野でボランティア



台風19号で被災した長野市立長沼保育園の泥だし作業をする高校球児=16日

の野球部員らは、長野市津野のリンゴ畑で木の根元から泥を取り除いた。甲子園球場で投手として登板した同高2年常田唯斗さん(17)は「自分たち(飯山高)も被災し、片付け方は分かるのでみんなで作らうとなった。泥は重たい。リンゴの木を傷めないようにしないとけない」。同クラブの選手と長野西高野球部員は、休園中の長沼保育園で泥をかいた。中島知則選手

(26)は「私たちは市民球団。長野市の人たちに応援してもらっている。少しでも手伝えた。来て良かった」。同高2年の山下佳さん(17)は「まだ手付かずの場所がたくさんあって驚いた。普通に学校に行けることや野球ができることは幸せだと改めて感じた」とかみしめていた。

協議会のボランティア担当を務める長野西高野球部監督、大槻寛教諭(38)は「(台風の影響で)野球活動を自粛する選択肢もあるが、自粛だけではプラスには働かない。行動することが大切と感じた」と話した。

## ランドリー車で洋服をきれいに



被災地に駆け付けた移動式ランドリー車を早速利用する人たち=16日午後3時28分、長野市穂保

## 宮崎の企業 長野の被災地支援

台風19号による千曲川堤防決壊などで広範囲に浸水被害が出た長野市穂保で16日、コインランドリー事業を展開するWASHハウス(宮崎市)の移動式ランドリー車による洗濯設備の無料提供が始まった。洗濯機が使えなくなった住民も多く「本当にありがたい」と早速、訪れていた。

全長12mあるランドリー車は大型洗濯乾燥機6台を積み、最大で同時に122kgの洗濯物に対応できる。昨秋に開発。被災地派遣は初という。

損壊した自宅で暮らしながら片付けなどを行っている在宅避難者を支援するボランティア団体「穂保被災者支援チーム」が出勤を要請した。

自宅2階の床まで浸水した同市豊野町沖の女性会社員(54)は衣類約20kgを洗った。女性は「においが取れた。まだ着たい洋服もあったから、本当にうれしい」と喜んだ。

ランドリー車は国道18号沿いの穂保被災者支援チームの拠点に置き、午前9時から午後5時まで利用できる。12月1日までの予定。同社は「被災者やボランティアなどにどんどん使ってほしい。フル稼働で対応する」としている。